
作者と科学部のとある一日

上川 勲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者と科学部のとある一日

【Nコード】

N5730B

【作者名】

上川 勲

【あらすじ】

ある日の作者の、実際に起きた一日について書かれています。

（前書き）

この話は、実際の話です。120%純正の事実でフィクションは入っておりません。

えゝどうも、作者のなかたくだ。今回は小説ということもあって
警護ではなく普段の口調なんだけど勘弁して。

さて、突然なのだが僕がいきなりこんな短編小説を書くことにな
った。なぜだろうねえ？その理由は簡単だ。ある友からこう言われ
たからだ。

「ノンフィクション小説を書いて」

とな。

初めはノンフィクション小説を書くのは僕の中でけっこう抵抗が
あったりもしていたのだが、まあ今日はちようどそいつの誕生日と
いうこともあってこうして書くことになった。

よって読者の皆様、ついて来るとよい。後悔するから。

僕が通っている学校は、どこにでもある平凡な県立高校だ。別段、
某人気ライトノベルのように宇宙人や未来人や超能力者はいない至
って平凡である。少なくともいたとしても僕は会っていないからい
ないということにする。仮定する。風潰^{しらみつぶ}しに拷問をかけて自白を強
要するとなると出てくるかもしれないが。

登校時間は、1年は8時10分まで、2年は8時15分まで、3
年は8時20までにしなければならので、現在2年である僕は
8時10分までに何とか登校しなければならぬ。

通学路は、坂あり平面路ありやたらと危なっかしい車の交通がけ

つこうあるのに信号のひとつすらついていないところあり……と、
けっこうなデンジャラスロードを通学してきているわけだ。

家から学校までは大体20〜25分ほどかかる。もちろん自転車
通学だ。そうでなきゃ僕は途中で挫折しているに違いない。

そしてデンジャラスロードを“猛”がつくほどのハイスピードを
出していつも5分前には校門をくぐりぬけている。途中、スキンヘ
ッドな現代文&古典担当教師や、マスマスチック(?)な数学教師
が校門前に立っているのて心なしの口頭だけの「おはようございま
す」を言い、とつと学校の敷地内に入って自転車置き場に自転車
を止めて、頭がただただ痛くなるだけの教科書が押し込まれている
でかいカバンを持って自分のクラスまで行くのだ。ちなみにこのと
きの曜日は確か火曜日……つまり2日前のことだ。……補習があつ
て7時20分に登校していたような気もするが、まあいいだろう。
そして8時40分、授業が始まる。うわーい。投げやりな歓声が
僕の中で響いている。やる気がでないねえ。2年だからそんなこと
も言ってられないんだけどさ。

そして、ただただ僕を眠りへと誘う先生たちのお経のような説明
を聞きながら12時30分になった。4時間目終了だ。うわーい。
この僕の中で響いている歓声には僕も賛同したい。

さて、僕は弁当を食べることにする。そのとき一緒に食べるやつ
たちは、

「よし、トイレいくぞ」

平面ぺったん(匿名)である。……そう、実のところ僕も最近わ
かったことなのだが、去年突如として現れた謎の自殺サイトお似合
いな小説“無価値22”を投稿していたのがこいつだったのである
ッ！まさかこんな身近にこのサイトに黒歴史を刻み込んでいたやつ
がいたとは……。平面ぺったんの友として代わりにここで詫びてお
きます。ごめんなさい。

そして、こいつがたいてい僕に会って言う言葉が先ほどの発言である。ひとりでトイレに行けないのか、こいつは。

だいぶ前こいつにそう言ってやったのだが、こいつはなんて言っただと思う？「花子さんが出るかもしれないじゃないかッ！」である。だったらそいつに便器に吸い込まれるといい。

そのほかにはWさん（匿名）がいたりする。こっちは平面ぺったんと比べればずいぶんと常識人である。生真面目すぎるのが玉に瑕なのだが。

その面子で僕は弁当を食べ、そして5時間目6時間目が始まった。うわーい。……説明しなくともわかつてくれ。

あいかわらず眠たい授業。子守り歌にしか聞こえないのは何でだろうか。昼のうらかな陽気がさらに僕の眠気を増大させ、生き地獄を存分にあげわい続けながら5、6時間目の授業も終了。

その後、教師からの明日の連絡を重要な部分だけ聞いて後は右耳から左耳へと教師の言葉がすり抜けさせて、清掃だ。ちなみに僕は教室掃除だ。

そして掃除を適当に終わらせて、僕は部活をするべく部室へと向かう。

僕の所属している部活は、ずばり科学部だ。科学部と聞いて皆はなんと思っただろうか？実験とかいつもしていそう……そう思っている人たちが大半だろう。

ふふふ……あまい。甘すぎるぞ。他の学校の科学部はそうかもしれないが、少なくとも僕の所属している科学部はそんなのではないッ！

科学部……科学部に所属している者たちの中では別名こう呼ばれている。プレイ部と。

プレイ部……はつきりと単刀直入に言っしまえば「遊び部」である。所属している僕が言うのもなんだが部活ではないッ！

生徒手帳に「部活動の内容が、何らかの教育的成果をあげられるものであること」と書かれているのだが、はつきり言おう。NOだッ！

あえて言うなれば、遊ぶことで精神的に若さを保つことができる……ということだろうな。

ガラガラ〜と引き戸を開け、部室の中に入るとそこではすでに2人の部員がいた。

ひとりとは科学部の部長（匿名）。2人目はチャップリンならぬトックリン（匿名）。そしてもうひとりは平面ぺったんである。

今のところ集合者はたった3名のようなうだ。僕を合わせれば4人だが……と、僕がそう思っていたとき、新たにもうひとり入ってきた。

「部長……あ、いた」

見つけるなりそう言うのはとつつあん（匿名）である。なぜとつつあんなのかつて？なんとなくそんな感じだから。そしてこのとつつあん、科学部じゃないのになぜか科学部にやってくるのだ。なんだろうねえ？顧問の教師も公認済みだし、何でもアリ感がこの部活にはあるね。ちなみに顧問の教師暇ここにはいない。おそらく会議か何かだろう。

そして続いてガッキー（匿名）が入って来ようとしていたとき、

「帰ってええで」

トックリンが無責任なことをガッキーに言うと、ガッキーは「やったー」とか言いながら入ってくるのをやめとつと帰ろうとする。

「おいおいッ！あいつはそういつたら絶対帰るんやからそんなこと言うなってッ！」

トックリンを一喝するなり、科学部の保護者的存在の部長は部室を出て、ガッキーの首根っこをつかんで引きずって部室へと強制連

行してきた。がんばってるねえ、部長。

さて実のところ後2人、2年で科学部のやつはいる。ひとりはい…アレ？なんでだろう？顔は思い出せるのに名前が思い出せない………。まあいいや。ひとり目はアレ（匿名）で、もうひとはひよろり（匿名）である。

アレのほうはともかく、ひよろりはなぜこないんだろうねえ。部活があるときは大抵やってきて、部室にセッティングされているパソコン一式に、勝手にパソコンゲームをインストールしてそれで遊んでいるのに……。おそらく図書室にあるインターネットに接続されているパソコンでもいじっているんだろうねえ。もしくは塾とか……。

ちなみになぜ“アレのほうはともかく”って言ったのかは、幽霊部員だからである。だからめったなことでは来ないのだ。以上、説明終わり。

そんな感じで今回集まったメンバーは僕、平面ぺったん、部長、ガッキー、とつつあん、トックリンである。

さて、ここからは部活開始である。

部長と平面ぺったんは部費で購入したソーラーで動くラジコンカー（？）を組み立て始め、トックリンと僕は授業中に出された宿題をし、とつつあんとガッキーは黒板に適当ならきがきをして遊んでいる。ちなみに黒板には、僕が遊んで書いたマリオがサザエさんへアーをしている姿が未だにある。たしか2週間ほど前に書いたものだった気がするが……まだ残っている。

そして僕も宿題するのに飽きて途中からとつつあんとガッキーのもとまで行き、適当な会話をしながら、生き物なのかどうかも判別がつかない謎の落書きを黒板にしながら時間が過ぎていき、顧問の教師が来たところで部活は終了となった。

さて、これほど平和で自由な部活が他にあるのなら是非、ご連絡
いただきたい。僕たちもたぶん負けられないようにするから。

ああ、そうそう。部長に部活のノンフィクション小説を書くつて
僕が宣言したら帰ってきた言葉がこれだ。目に焼き付けるとよい。

「やめてくれ。我が部の恥を晒すのは」

苦勞人だねえ、部長……。

つくづくそう思ったよ。僕のせいでもあるんだろうけど。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5730b/>

作者と科学部のとある一日

2010年10月31日04時30分発行